

<今回>226回目 2018年1月8(月)16時~18時 601号室

読書は9冊目「邪馬壹国の証明」 p54私の学問研究の方法論について より

<前回>225回目(17-12-26) 出席者12名

資料(17-12-26-1)前回のまとめ(清水)

-2) 日本書紀に見る2倍年暦の兆候(清水)

-5) 蘆城の駅家(和田)

-4) 日程表(清水)

-3) 埋文よこはま(菅原)

A 報告

年の暮だが大勢参加された。影向寺、弘明寺、府中熊野神社、遊行寺など 700 年前後の様子に手の届く日帰り散策がこれからも大切になるだろう。

懇親会11名 津多屋24299円(11・2000+3000) +701円

B 資料 -2) 前回の2倍年暦(継体以前)に対して、03年(15年前)に丹念に日本書紀の干支日付けを調査して、月の前半期間の出現割合が推古以前は統計的に同じとは言えないことを示した論文を再提出した。

-5) 多元の万葉と漢文の勉強会に和田幹事長から披露された筑紫野教育委員会の蘆城駅家の発掘資料を紹介した。阿志城山城や阿志岐の土堤(羅城?)の近くにある。万葉集では太宰府の官人たちの送迎の宴席に使われた場所。近畿に行くのに玄海灘方面ではなく、瀬戸内に直接行く駅家であった。8世紀の大宰府の郊迎の地。

-3) 横浜の埋蔵文化財センターが近くにあると菅原さんが「横浜の古道について 36号」を手に入れてきてくれた。泉区中の宮遺跡や、橘樹郡の影向寺、など興味ある古道の資料が纏められていた。古道の勉強になる。

C 読書「邪馬壹国の証明」のp47 壁画古墳と石馬 から。

1) 肥後の装飾古墳と古事記天国の器物とは共通性がある。武器(矛、弓、鞞、刀)、鳥舟、斑馬。木綿(白丹寸手、青丹寸て)は出ても錦(にしき)はないが神話の世界と壁画古墳は明白に共有部分がある。すなわち記紀神話は九州王朝の内部でできて5,6世紀に記録され「日本旧記」に収録されたもの。

2) 石人・石馬 石造物で墓を守衛することは南朝劉宋と九州は共通する。倭の5王の墓は近畿天皇家の陵墓ではなく九州の石人・石馬を持つ古墳群だ。森浩一氏は漢の霍去病の石馬などは中国の北にある。それと似た九州の石馬は中国南朝下の文物とは言えないという。しかし①南朝に現存する獅子の石獣は天子に相応しい。九州の石馬は次の將軍の位置に相応しい。霍去病の石馬と同じ位取り。②南朝の天子たちは石人・石獣の禁止令を度々出している。

森浩一氏(考古学者)は近畿天皇家の陵が中国南朝の文物とは異なる点を指摘してくれていた。

3) 九州王朝と卑弥呼の後裔。埼玉稻荷山鉄剣の銘文発見であわただしい1年であった。夷蕃の国王が中国化されて来ると1字名が始まる。隅田八幡宮の人物画像鏡の日十大王・年、加多支鹵大王・寺(時)とこの読みは壹与に始まっている。倭讚と同じ形式。

邪馬壹国の名称は壹与の時代の名称(西晋時代)。後漢書の邪馬台国は5世紀(後漢は1,2世紀)成立時点の読み。

4) 邪馬壹国の名称は倭国側の自称。8世紀に日本の使者に送られた唐詩に「更に扶桑の東にあることを」扶桑は倭国の雅名。日出処天子の名文句は阿蘇山下にある多利思北弧という男王の国書、推古や聖徳太子の事績ではない。

次回日程 18-1-29(月) 15時から18時 603会議室

-2-2(金) 16時から18時 601会議室

－2－26(月) 15時から18時 601 会議室